

## 【活動テーマ/テーマ設定背景】

●テーマ：身の回りにあるかがくってなんだろう？

●設定背景：日常の中にある現象に対して、「なんで？」と思うことが増えてきた子どもたち。段々と気温も下がってきて、お風呂に浸かるが増える季節。普段から目にする入浴剤(バスボム)がどのように出来ているのか。実は身近なもので出来ていることを発見する活動を行う。

## 【活動のために準備した素材や道具、環境の設定】

重曹、クエン酸、塩、食用色水

## 【活動内容/お子さまの声や姿や保育者との関わり】

「バスボムを入れるとどうなる？」「シュワシュワする！」

「バスボムには重曹っていうのが入っていてパンケーキとかにも入ってるんだよ」という声掛けなどから、身近なものでできることを発見する活動を行った。

小さい袋にクエン酸と重曹の粉を入れたところで、子ども達は「そこに水を垂らすとどうなるかな？」という問いかけを受けながら水を垂らすと「すごい！魔法みたい！」「お料理しているみたい」などの反応でバスボム作りの工程を通して、自分の手で素材に触れ、感触を確かめながら、科学への興味関心を育む時間となった。



## 【振り返りをふまえた気づき】

### ●振り返りによって得た先生の気づき

バスボムは自宅で遊んだ事があるという子が多かったが、どのように作られているかは知らず、工程を聞くと「これでなるの？」と興味津々に集中していた。

好きな色をスポイトを使用し自分色にし、色の変化も楽しむ事が出来ている。

クエン酸などの説明を聞き、科学への関心が広がる時間となっていた。引き続き、色々な体験を行っていきたい。